

前渡不動山と周辺の史跡

各務原市の前渡地域は、古くは「大豆戸」(摩免戸)と呼ばれていました。前渡は木曾川の浅瀬であったため、承久の乱の際には合戦場となり、近世以降は渡し場でした。この地域一帯は洪水が多く、猿尾堤を築いて堤防の決壊を防いでいました。

明治時代には、前渡不動山に京都から仏眼院が移転し、霊場として栄えました。

① 豊太閤祈願院の碑

仏眼院が京都の醍醐寺の塔頭(大寺院の山中にある小寺院)であったころ、豊臣秀吉が花見の日の晴天を祈願したというエピソードを伝える碑です。



② 八十八体の石仏

明治時代に、四国八十八ヶ所巡りを模して立てられた石仏です。「鵜沼石」と呼ばれる硬い砂岩で作られています。



③ 市史跡 承久の乱合戦供養塔

承久の乱の戦没者を供養したと伝わる五輪塔です。前渡で戦いのあった6月に、毎年供養祭が行われています。



④ 前渡不動山仏眼院

仏眼院は、鎌倉時代に京都の醍醐寺の塔頭として創建されたと伝わる、真言宗の寺院です。明治時代、名前と仏像をこの地に移しました。



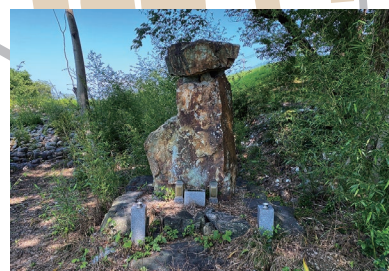
⑤ 山頂

木曾川を眼下に見ながら、濃尾平野を一望することができます。



⑥ 人柱の碑

堤防の決壊を防ぐため、人柱として女兒をこの地に埋めたという言い伝えがあります。その人柱を祀った石碑です。



⑦ 前渡猿尾堤

堤防から川に突き出た小堤防です。水流が直接堤防に当たるのを遮り、堤防を守る目的があります。



じょうきゅうのらんとかがみはら
承久の乱
と各務原

大豆戸合戦図

(イラストによる想像図)

この絵は、6月6日早朝、大豆戸に布陣する京方に、東山道軍が鶴沼から、東海道軍が尾張側から攻め込んでいる様子をイメージしたものです。

京方軍
幕府東山道軍
幕府東海道軍

大井戸・鶴沼・伊義などの京方軍を
打ち破り、大豆戸に向かう

幕府東山道軍



川を渡って攻撃を仕掛ける

幕府東海道軍

両軍対陣図

幕府軍進路



承久の乱と各務原

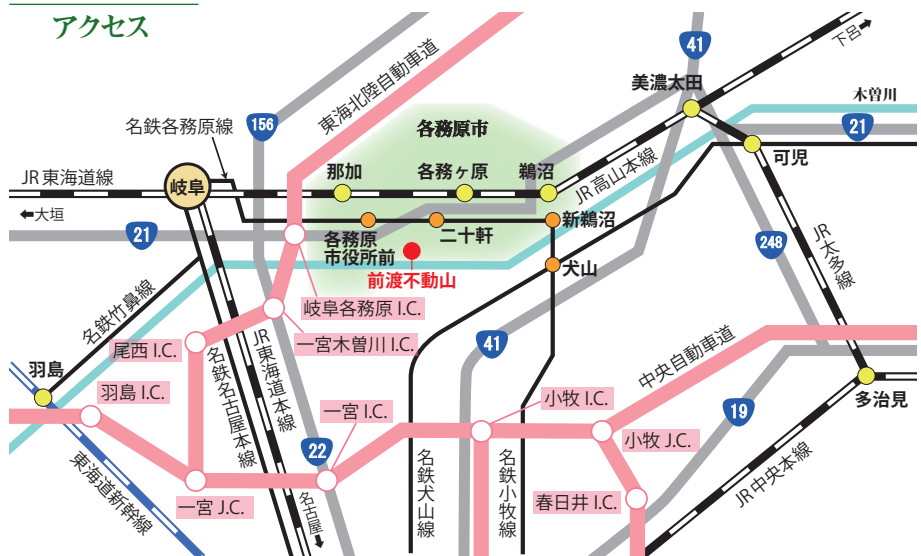
承久の乱とは、後鳥羽上皇が鎌倉幕府執権北条義時の追討を図って挙兵するも鎌倉幕府に敗れた、一連の戦いのことをいいます。ここ各務原では、承久3年(1221)6月、前渡を中心とした木曾川の渡河地点で合戦がありました。

承久3年5月末、幕府軍は東海道・東山道・北陸道に分かれて京へ向けて進軍しました。対する後鳥羽上皇に味方する京方の軍勢は、東海道・東山道の軍勢を木曾川で迎え撃つ構えをとりました。木曾川の浅瀬の中でも特に大豆戸(摩免戸、各務原市前渡)は浅く、水量の多い夏場でも渡河しやすい場所であったため、幕府軍は北条泰時、京方は藤原秀康と、両軍の総大将が大軍を率いて布陣しました。

6月5日夜、大井戸(可児市土田)で東山道の幕府軍が渡河攻撃をしかけ、大井戸の京方軍を敗走させました。東山道軍は鶴沼に進軍を開始し、それを受けて東海道の幕府軍は木曾川を越えて進軍し、6月6日の朝、大豆戸で合戦となりました。

ACCESS

アクセス



- 電 車 / 名鉄各務原線「二十軒駅」下車 徒歩30分
- バ ス / 名鉄各務原線「各務原市役所前駅」または「三柿野駅」より
ふれあいバス⑤稲羽線「前渡不動前」下車
- 自動車 / 東海北陸自動車「各務原 I.C.」15 分

山頂まで徒歩約 5 分

駐車場約 50 台

編集・発行

各務原市歴史民俗資料館

〒504-0911 岐阜県各務原市那加門前町 3-1-3 中央図書館 3 階 | ☎058-383-1361
<https://www.city.kakamigahara.lg.jp/kankobunka/1010039/rekisi/index.html>
休館日 / 月曜日、祝日の翌日、年末年始